

火おこし体験

「まいぎり」という道具を使って火おこしに挑戦。火がおきた時の達成感は格別で、その火を使っての料理やキャンプファイアに発展できます。



対象	4年生以上	実施時期	通年
持ち物	なし		

ねらい

- ・昔の火おこしの方法を知り、それを体験することによって先人の知恵や工夫を知るとともに、火の大切さとありがたさを理解させる。
- ・協調や協同を通して豊かな人間性を育成する。

実施の流れ

打ち合わせ・説明

- ◆開始 15 分前に、本所職員と団体代表者の打ち合わせを行います。
- ◆説明は本所職員が行います。

以降は、各団体が中心となり進行してください

準備

- ① 班に分かれる（1班4人程度）
- ② 班に1つ丸太の椅子を用意する。
- ③ 班ごとに道具の準備をする。（火おこし器、火きり板、麻ひも、麻網、古ハガキ）

実施

※次ページ参照

片付け

- ① 道具を片付ける。
- ② 使った場所の掃除をし、ゴミは所定の場所に捨てる。（燃えカスは、火事にならないよう決められた場所へ集める。）
- ③ 麻ひものカスや、燃えカスが散らばるので、掃き掃除を丁寧にする。

まとめ

- ・ふりかえり
- ・感想発表等

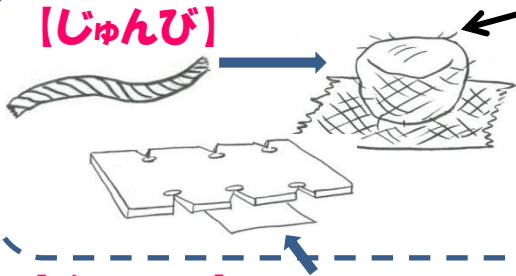
留意点

- ① 火を使う活動です。火傷等充分注意しましょう。
- ② 火種を回す場所を確保するようにしましょう。火おこしをしている所で回すと、火種が飛び散ってくる可能性があります。人のいない所で回しましょう。
- ③ 後片付けを、しっかりしましょう。
- ④ 万が一の為、消火器の場所を確認しておいてください。
- ⑤ 山火事に注意してください。（特に風が強いとき）

火おこし(まいぎい法)

埼玉県立名栗げんきプラザ

【じゅんび】

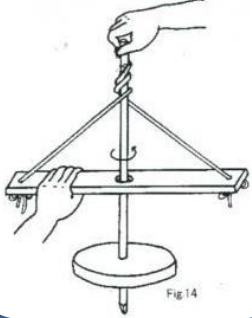


← 火口(ほぐち)

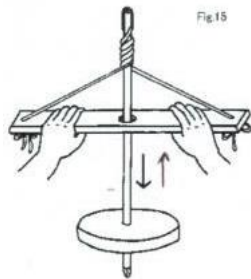
- ① 麻ひもをほぐして鳥の巣のような形(火口)を作り、麻のあみにのせる
- ② 火切り板の穴の下に紙をはさむ

【火おこし】

- ③ 板の穴におき棒にひもを巻きつける

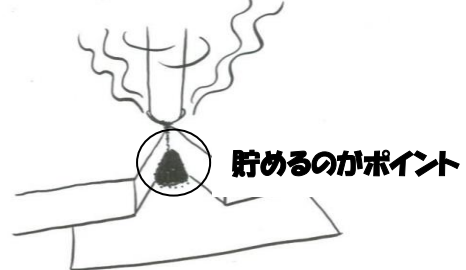


- ④ 『両手で押し下げ反動で上げる』をタイミングよくくりかえす



とまらずに回転させるのがコツ!

- ⑤ けむりが出はじめ、黒い木くずが出てくる。



貯めるのがポイント

まだ火だねはできてないよ あと板をしっかり押さえないと努力がムダになるよ

- ⑥ 木くずからけむりが出てきたら、赤い火だねができています



- ⑦ 火だねを紙にのせたままそっと火口に入れる



- ⑧ 麻のあみでくみ、合わせ目を下にしてもつなるべく長く息をふきかける、または手を小さく回して火をつける



あぶないので小さく回そう

手や前髪にやけどをしないよう気をつけよう!

- ⑨ 火がついたら、下に落とす

